

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成22年3月17日
【四半期会計期間】	第45期第3四半期(自平成21年11月1日至平成22年1月31日)
【会社名】	株式会社伊藤園
【英訳名】	ITO EN, LTD.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 本庄 大介
【本店の所在の場所】	東京都渋谷区本町3丁目47番10号
【電話番号】	03(5371)7111(代表)
【事務連絡者氏名】	管理本部副本部長 水野 俊作
【最寄りの連絡場所】	東京都渋谷区本町3丁目47番10号
【電話番号】	03(5371)7205
【事務連絡者氏名】	管理本部副本部長 水野 俊作
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号) 株式会社伊藤園 横浜緑支店 (神奈川県横浜市緑区霧ヶ丘2丁目7番11号) 株式会社伊藤園 八千代支店 (千葉県八千代市勝田台南3丁目11番23号) 株式会社伊藤園 大宮支店 (埼玉県さいたま市見沼区春岡3丁目20番地4号) 株式会社伊藤園 尼崎支店 (兵庫県尼崎市金楽寺町1丁目5番33号) 株式会社伊藤園 静岡支店 (静岡県静岡市葵区神明町85番地2) 株式会社伊藤園 堺支店 (大阪府堺市北区北花田町2丁目202番地) 株式会社伊藤園 名古屋東支店 (愛知県名古屋市名東区勢子坊2丁目1406番地) 株式会社伊藤園 福岡支店 (福岡県福岡市博多区金の隈1丁目21番19号)

(注) 上記の静岡支店及び福岡支店は法定の縦覧場所ではありませんが、投資者の便宜のため縦覧に供する場所としてあります。

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

連結経営指標等

回次	第44期 第3四半期 連結累計期間	第45期 第3四半期 連結累計期間	第44期 第3四半期 連結会計期間	第45期 第3四半期 連結会計期間	第44期
会計期間	自 平成20年 5月1日 至 平成21年 1月31日	自 平成21年 5月1日 至 平成22年 1月31日	自 平成20年 11月1日 至 平成21年 1月31日	自 平成21年 11月1日 至 平成22年 1月31日	自 平成20年 5月1日 至 平成21年 4月30日
売上高 (百万円)	255,360	253,261	73,909	73,754	332,847
経常利益 (百万円)	7,972	9,445	862	731	10,376
四半期(当期)純利益 (百万円)	3,644	4,952	453	251	4,765
純資産額 (百万円)			101,534	99,250	99,989
総資産額 (百万円)			150,603	163,904	160,803
1株当たり純資産額 (普通株式) (円)			814.72	798.49	800.94
1株当たり純資産額 (第1種優先株式) (円)			814.72	798.49	805.94
1株当たり四半期 (当期)純利益 (普通株式) (円)	27.87	38.40	3.64	2.02	35.47
1株当たり四半期 (当期)純利益 (第1種優先株式) (円)	32.87	43.41	3.64	2.02	45.47
潜在株式調整後 1株当たり四半期 (当期)純利益 (普通株式) (円)	27.79	38.29	3.63	2.01	35.36
潜在株式調整後 1株当たり四半期 (当期)純利益 (第1種優先株式) (円)	32.79	43.30	3.63	2.01	45.36
自己資本比率 (%)			67.3	60.4	62.1
営業活動による キャッシュ・フロー (百万円)	943	12,553			5,350
投資活動による キャッシュ・フロー (百万円)	4,892	6,049			7,222
財務活動による キャッシュ・フロー (百万円)	5,675	4,124			6,615
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高 (百万円)			10,916	16,306	13,988
従業員数 (名)			5,830	6,040	6,191

(注) 1 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載していません。

2 売上高には、消費税等は含まれておりません。

2 【事業の内容】

当第3四半期連結会計期間において、当グループ（当社及び当社の関係会社）が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

3 【関係会社の状況】

当第3四半期連結会計期間において、重要な関係会社の異動はありません。

4 【従業員の状況】

(1) 連結会社の状況

平成22年1月31日現在

従業員数(名)	6,040 (4,925)
---------	------------------

- (注) 1 従業員数は、就業人員であり、当グループから当グループ外への出向者を除き、当グループ外から当グループへの出向者を含んでおります。
- 2 従業員数欄の（外書）は、臨時従業員（契約社員、嘱託及びパートタイマー）の当第3四半期連結会計期間の平均雇用人員であります。

(2) 提出会社の状況

平成22年1月31日現在

従業員数(名)	5,211 (2,404)
---------	------------------

- (注) 1 従業員数は、就業人員であり、当社から当社外への出向者を除き、当社外から当社への出向者を含んでおりません。
- 2 従業員数欄の（外書）は、臨時従業員（契約社員、嘱託及びパートタイマー）の当第3四半期会計期間の平均雇用人員であります。

第2 【事業の状況】

1 【生産、受注及び販売の状況】

(1) 生産実績

当第3四半期連結会計期間における生産実績を事業の種類別セグメントごとに示すと、次のとおりであります。

事業の種類別セグメントの名称及び品目	生産高(百万円)	前年同四半期比(%)
茶葉(リーフ)関連事業	6,023	1.1
飲料(ドリンク)関連事業		
(自社飲料製品用原料茶葉)	2,153	1.4
(販売用飲料製品)	836	3.0
飲料(ドリンク)関連事業計	2,989	0.1
その他の事業	186	32.3
合計	9,200	0.2

- (注) 1 販売用茶葉、販売用飲料製品及びその他の事業の金額は販売価格、自社飲料製品用原料茶葉の金額は原価によっております。
2 上記生産実績には外部へ製造委託している仕入製品は含まれておりません。
3 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

(2) 仕入実績

当第3四半期連結会計期間における仕入実績を事業の種類別セグメントごとに示すと、次のとおりであります。

事業の種類別セグメントの名称	仕入高(百万円)	前年同四半期比(%)
茶葉(リーフ)関連事業	1,306	10.4
飲料(ドリンク)関連事業	29,394	1.3
その他の事業	2,156	1.2
合計	32,857	0.6

- (注) 1 金額は仕入原価によっております。
2 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

(3) 受注実績

当グループは受注生産を行っておりません。

(4) 販売実績

当第3四半期連結会計期間における販売実績を事業の種類別セグメントごとに示すと、次のとおりであります。

事業の種類別セグメントの名称	販売高(百万円)	前年同四半期比(%)
茶葉(リーフ)関連事業	8,192	0.6%
飲料(ドリンク)関連事業	60,438	0.6%
その他の事業	5,124	3.1%
合計	73,754	0.2%

- (注) 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

2 【事業等のリスク】

当第3四半期連結会計期間における、本四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生、又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

なお、重要事象等は存在していません。

3 【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等は行なわれていません。

4 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1) 経営成績の分析

当第3四半期連結会計期間（平成21年11月1日から平成22年1月31日まで）におけるわが国経済は、各種の経済対策の効果が期待されたものの、本格的回復にはいたらず、厳しい雇用情勢や、低迷する所得環境など、依然として厳しい状況のまま推移いたしました。

飲料業界におきましても、景気の先行きの不透明感や、改善の見られない雇用・所得環境を背景とする節約志向が加速するなど個人消費は低迷を続けており、経営環境は依然として厳しい状況が続いております。

このような状況の中、当グループは経営理念であります「お客様第一主義」のもと、当グループを取り巻く全てのお客様に対し「お客様が今でもなお、何を不満に思っているか」を念頭に置き、積極的な製品開発・営業展開を行うとともに、市場環境や競合他社の分析に基づいた経営資源の投下を行い、経営の効率化を図ってまいりました。

売上に関しましては、主力商品である緑茶飲料は、嗜好性に合わせた幅広い品揃えが評価を頂き、販売数量は増加しましたものの、市場における低価格化の影響を受け、前年と比較し減少いたしました。また、紅茶の新たなおいしさをご提案した「TEAS'TEA NEW YORK」や、原料から製法に至るまで、こだわり抜いた「TULLY'S COFFEE BARISTA'S CHOICE」を発売するなど、グループ企業とのコラボレーション製品を積極的に投入してまいりました結果、売上高は737億54百万円（前年同四半期比0.2%減）と、底堅く推移いたしました。

利益面におきましては、引き続き原価低減の推進を図りましたものの、新商品等の販売促進を積極に行ったことにより、営業利益は9億42百万円（前年同四半期比20.7%減）、経常利益は7億31百万円（前年同四半期比15.1%減）、四半期純利益は2億51百万円（前年同四半期比44.6%減）となりました。

事業の種類別セグメントの業績を示すと次の通りであります。

< 茶葉（リーフ）関連事業 >

当第3四半期連結会計期間の売上高は81億92百万円（前年同四半期比51百万円増）となりました。

< 飲料（ドリンク）関連事業 >

当第3四半期連結会計期間の売上高は604億38百万円（前年同四半期比3億62百万円減）となりました。

< その他の事業 >

当第3四半期連結会計期間の売上高は51億24百万円（前年同四半期比1億56百万円増）となりました。

(2) 財政状態の分析

当第3四半期連結会計期間末の総資産は1,639億4百万円となり、前連結会計年度末と比較して31億円増加いたしました。総資産の主な変動要因は、「現金及び預金」が19億71百万円、有形固定資産の「リー

ス資産」が59億25百万円それぞれ増加し、「受取手形及び売掛金」が46億25百万円減少したことによるものです。

当第3四半期連結会計期間末の負債は646億54百万円となり、前連結会計年度末と比較して38億39百万円増加いたしました。負債の主な変動要因は、「借入金」が38億45百万円、「リース債務」が63億80百万円それぞれ増加し、「買掛金」が53億99百万円減少したことによるものです。

当第3四半期連結会計期間末の純資産は992億50百万円となり、前連結会計年度末と比較して7億38百万円減少いたしました。純資産の主な変動要因は、四半期純利益により49億52百万円増加し、剰余金の配当により51億32百万円、第1種優先株式等の自己株式の取得により3億27百万円、それぞれ減少したことによるものです。

以上の結果、自己資本比率は前連結会計年度末の62.1%から60.4%となりました。

(3) キャッシュ・フローの状況の分析

当第3四半期連結会計期間末の現金及び現金同等物の残高は163億6百万円となり、第2四半期連結会計期間末より36億12百万円減少いたしました。当第3四半期連結会計期間における各キャッシュ・フローの状況は、次の通りとなります。

営業活動によるキャッシュ・フローは、9億30百万円の増加（前年同四半期は16億38百万円の減少）となりました。主な要因といたしましては、増加要因として売上債権の減少52億50百万円、減価償却費19億18百万円であるのに対し、減少要因として仕入債務の減少40億36百万円、法人税等の支払額24億21百万円があったことによるものです。

投資活動によるキャッシュ・フローは、7億59百万円の支出（前年同四半期は12億70百万円の支出）となりました。これは主に設備投資、システム投資等による支出7億64百万円があったことによるものです。

財務活動によるキャッシュ・フローは、37億38百万円の支出（前年同四半期は27億7百万円の支出）となりました。これは主に配当金の支払22億41百万円、ファイナンス・リース債務の返済による支出10億76百万円があったことによるものです。

(4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結会計期間において、当グループが対処すべき課題についての重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

(5) 研究開発活動

当第3四半期連結会計期間における当グループの研究開発費の総額は4億50百万円であります。なお、当第3四半期連結会計期間において、当グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

第3 【設備の状況】

(1) 主要な設備の状況

当第3四半期連結会計期間において、主要な設備に重要な異動はありません。

(2) 設備の新設、除却等の計画

第2四半期連結会計期間末に計画中であった当社の情報システム導入につきましては、平成21年11月に完了し運用を開始いたしました。

また、当第3四半期連結会計期間において、新たに確定した重要な設備の新設、除去等はありません。

第4 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	200,000,000
第1種優先株式	200,000,000
計	200,000,000

(注) 当社の定款第5条に定められたところにより、当社の普通株式及び第1種優先株式をあわせた発行可能種類株式総数は、200,000,000株であります。

【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間 末現在発行数(株) (平成22年1月31日)	提出日現在 発行数(株) (平成22年3月17日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	91,212,380	91,212,380	東京証券取引所 (市場第1部)	権利内容に制限のない 標準となる株式 (注)2
第1種優先株式	35,246,962	35,246,962	東京証券取引所 (市場第1部)	(注)2 (注)3
計	126,459,342	126,459,342		

(注) 1. 「提出日現在発行数」には、平成22年3月1日からこの四半期報告書提出日までの新株予約権の行使により発行された株式数は含まれておりません。

- 自己資本の拡充及び財務体質の強化のため、第1種優先株式を発行しております。単元株式数は、普通株式及び第1種優先株式のそれぞれにつき100株であります。
- 第1種優先株式の内容は、次のとおりであります。

(1) 第1種優先配当

普通株式を有する株主(以下「普通株主」という。)又は普通株式の登録株式質権者(以下「普通登録株式質権者」という。)に対して剰余金の配当(配当財産が金銭の場合に限る。)を行うときは、当該配当に係る基準日の最終の株主名簿に記録された第1種優先株式の株主(以下「第1種優先株主」という。)又は第1種優先株式の登録株式質権者(以下「第1種優先登録株式質権者」という。)に対し、当該配当に先立ち、第1種優先株式1株につき、当該配当において普通株式1株に対して交付する金銭の額に、125パーセントを乗じた額(小数第一位まで算出し、小数第一位を切り上げる。)の剰余金の配当(以下「第1種優先配当」という。)を行う。第1種優先配当の計算の結果、算出された金額が下記に定める第1種無配時優先配当の金額に満たない場合、第1種優先配当の金額は第1種無配時優先配当の金額と同金額とする。

毎事業年度の末日、毎年10月31日その他の取締役会が定める日の最終の株主名簿に記録された普通株主又は普通登録株式質権者に対して剰余金の配当(配当財産が金銭の場合に限る。)を行わないときは、当該株主名簿に記録された第1種優先株主又は第1種優先登録株式質権者に対し、第1種優先株式1株につき、15円の剰余金の配当(以下「第1種無配時優先配当」という。)を行う。

第1種優先株式発行後、第1種優先株式の併合又は分割を行うときは、第1種無配時優先配当につき、併合の割合又は分割の割合に応じて必要な調整を行うものとする。なお、調整の結果生じる端数については、小数第一位まで算出し、小数第一位を切り上げる。調整後の第1種無配時優先配当の額は、株式の併合又は株式の分割の効力を生ずる日(以下「併合等効力発生日」という。)から適用する。但し、併合等効力発生日の前日までの日を基準日とする第1種無配時優先配当についてはこの限りではない。

第1種優先配当又は第1種無配時優先配当の全部又は一部が行われなかったときは、その不足額を累積し、上記又はに規定するときにおいて、当該配当に係る基準日の最終の株主名簿に記録された第1種優先株主又は第1種優先登録株式質権者に対し、第1種優先配当又は第1種無配時優先配当に先立ち、累積した不足額の剰余金の配当（以下「第1種累積未払配当」という。）を行う。

第1種優先株主又は第1種優先登録株式質権者に対し、第1種優先配当、第1種無配時優先配当及び第1種累積未払配当以外の金銭を配当財産とする剰余金の配当を行わない。

(2) 残余財産の分配

残余財産を分配するときは、第1種優先株主又は第1種優先登録株式質権者に対して、普通株主又は普通登録株式質権者に先立って、上記(1)に規定する不足額を支払う。

上記に規定する場合には、第1種優先株主又は第1種優先登録株式質権者に対して、上記の規定による支払いのほか、普通株主又は普通登録株式質権者に対して交付する残余財産の価額に相当する金銭を支払う。

(3) 議決権

第1種優先株主は、全部の事項につき株主総会において議決権を行使することができない。但し、過去2年間において、法令及び定款に従って第1種優先配当又は第1種無配時優先配当を行う旨の決議が行われなかったときは、第1種優先配当又は第1種無配時優先配当の支払いが行われるまでの間は、この限りでない。

(4) 種類株主総会の決議

会社法第322条第1項各号に掲げる行為をする場合においては、法令に別段の定めがある場合を除くほか、第1種優先株主を構成員とする種類株主総会の決議を要しない旨、当社定款に規定している。

(5) 併合又は分割、無償割当て等

株式の併合を行うときは、普通株式及び第1種優先株式の双方を同時に同一の割合で行う。

株式の分割又は株式無償割当てを行うときは、以下のいずれかの方法により行う。

a 普通株式及び第1種優先株式の双方について、株式の分割を、同時に同一の割合で行う。

b 普通株式又は第1種優先株式のいずれかについて株式の分割を行い、当該株式の分割と同時に、株式の分割を行わない種類の株式に対して株式の分割を行う種類の株式を株式無償割当てする。株式無償割当ては一株につき株式の分割の割合と同一の割合で行う。

(6) 取得条項

次の各号のいずれかに該当する場合、当該各号に定める日（取締役会が、それ以前の日を定めたときは、その日）の到来をもって、その日に残存する第1種優先株式の全部を取得し、これと引換えに、第1種優先株式1株につき当社の普通株式1株を第1種優先株主に交付する。

a 当社が消滅会社となる合併、完全子会社となる株式交換又は株式移転（当社の単独による株式移転を除く。）に係る議案が全ての当事会社の株主総会（株主総会の決議を要しない場合は取締役会）で承認された場合 当該合併、株式交換又は株式移転の効力発生日の前日

b 普通株式を対象とする公開買付けが実施された結果、公開買付者の株券等所有割合（金融商品取引法第27条の2第8項に規定される意味を有する。以下同じ。）が50パーセント超となった場合当該株券等所有割合が記載された公開買付報告書が提出された日から90日目の日

株式会社東京証券取引所が、当社の第1種優先株式を上場廃止とする旨の発表をした場合には、取締役会が定める日の到来をもって、その日に残存する第1種優先株式の全部を取得し、当社はこれと引換えに、第1種優先株式1株につき当社の普通株式1株を第1種優先株主に交付する。

(2) 【新株予約権等の状況】

旧商法に基づき発行した新株予約権は、次のとおりであります。

平成14年7月29日定時株主総会決議に基づくもの（株式会社伊藤園第1回新株予約権）

	第3四半期会計期間末現在 (平成22年1月31日)
新株予約権の数(個)	283(注)1
新株予約権のうち自己新株予約権の数(個)	-
新株予約権の目的となる株式の種類	当社普通株式
新株予約権の目的となる株式の数(株)	73,580(注)2
新株予約権の行使時の払込金額(円)	1,743(注)3
新株予約権の行使期間	平成16年9月1日～ 平成24年6月30日
新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価格及び資本組入額(円)	発行価格 1,743 資本組入額 872
新株予約権の行使の条件	(1)対象者は、当社又は当社子会社を退任後も新株予約権を行使できる。 (2)対象者に法令又は当社もしくは当社子会社の内部規律に対する重大な違反行為があった場合、対象者は新株予約権を行使できない。 (3)対象者は、新株予約権を譲渡、質入れ、その他一切の処分をすることができない。 (4)対象者が死亡した場合、対象者の相続人のうち、対象者の配偶者、子、1親等の直系尊属に限り、新株予約権を行使することができる。 (5)この他の権利行使の条件は、株主総会決議および取締役会決議に基づき、当社と対象者との間で締結する新株予約権割当契約の定めるところによる。
新株予約権の譲渡に関する事項	新株予約権を譲渡するときは取締役会の承認を要する。
代用払込みに関する事項	-
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項	-

(注)1. 新株予約権1個当たりの目的となる株式数は、260株であります。

2. 当社が株式の分割、併合又は無償割当てを行う場合、新株予約権の目的となる株式の数は、次の算式により調整される。ただし、かかる調整は、新株予約権のうち、当該時点において行使されていない新株予約権の目的となる株式についてのみ行われ、調整計算の結果生じる1株未満の端数は切り捨てる。

調整後株式数 = 調整前株式数 × 分割、併合又は無償割当ての比率

また、新株予約権発行日後に、当社が他社と吸収合併もしくは新設合併又はその他組織変更を行う場合等においては、各新株予約権の行使により発行される株式の数は適切に調整される。

3. 新株予約権発行日後に、当社が株式の分割、併合又は無償割当てを行う場合は、次の算式により行使価額を調整し、調整による1円未満の端数は切上げる。

$$\text{調整後行使価額} = \text{調整前行使価額} \times \frac{1}{\text{分割・併合・無償割当ての比率}}$$

また、新株予約権発行日後に、時価を下回る価額で新株の発行又は自己株式の処分（新株予約権の行使、「商法等の一部を改正する法律」（平成13年法律第128号）の施行前の旧商法第341条ノ2に基づく転換社債の転換、および同法第341条ノ8の規定に基づく新株引受権付社債にかかる新株引受権の行使による場合を除く。）を行うときは、次の算式により行使価額を調整し、調整による1円未満の端数は切上げる。なお、次の算式において、「既発行株式数」とは、当社の発行済株式総数から当社の保有する自己株式を控除した数をいう。

$$\text{調整後行使価額} = \text{調整前行使価額} \times \frac{\text{既発行株式数} + \frac{\text{新規発行株式数又は処分株式数} \times 1 \text{株当たり払込金額又は処分価額}}{1 \text{株当たりの株価}}}{\text{既発行株式数} + \text{新規発行又は処分株式数}}$$

さらに、新株予約権発行日後に、当社が他社と吸収合併もしくは新設合併又はその他組織変更を行う場合等、行使価額の調整を必要とするやむを得ない事由が生じたときは、当社は、合理的な範囲において行使価額を調整する。

4. 平成18年1月5日開催の取締役会決議により、平成18年3月1日付で1株を2株とする株式分割を行っております。これにより「新株予約権の目的となる株式の数」、「新株予約権の行使時の払込金額」及び「新株予約

- 権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価格及び資本組入額」が調整されております。
5. 平成19年7月26日開催の取締役会決議により、平成19年9月3日付で普通株式1株につき0.3株の割合にて第1種優先株式の無償割当てを行っております。これにより「新株予約権の目的となる株式の数」、「新株予約権の行使時の払込金額」及び「新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価格及び資本組入額」が調整されております。

平成16年7月28日定時株主総会決議に基づくもの(株式会社伊藤園第2回新株予約権)

	第3四半期会計期間末現在 (平成22年1月31日)
新株予約権の数(個)	1,330(注)1
新株予約権のうち自己新株予約権の数(個)	-
新株予約権の目的となる株式の種類	当社普通株式
新株予約権の目的となる株式の数(株)	345,800(注)2
新株予約権の行使時の払込金額(円)	1(注)3
新株予約権の行使期間	平成16年9月1日～ 平成46年8月31日
新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価格及び資本組入額(円)	発行価格 1 資本組入額 1
新株予約権の行使の条件	(1)対象者は、新株予約権を割当てられた時に就任していた会社の役員(取締役又は監査役)を退任したときに限り、新株予約権を行使することができる。ただし、この場合、対象者は、対象者が上記の役員を退任した日の翌日(以下「権利行使開始日」という。)から当該権利行使開始日より10日を経過する日までの間に限り、新株予約権を行使できる。 (2)対象者は、新株予約権を質入れ、その他一切の処分をすることができない。 (3)対象者が死亡した場合、対象者の相続人のうち、対象者の配偶者、子、1親等の直系尊属に限り新株予約権を行使することができる。ただし、相続人は、当該役員が死亡退任した日の翌日から3ヶ月を経過する日までの間に限り、新株予約権を行使できる。 (4)この他の権利行使の条件は、株主総会決議および取締役会決議に基づき、当社と新株予約権の割当てを受けた者との間で締結する新株予約権割当て契約の定めるところによる。
新株予約権の譲渡に関する事項	新株予約権を譲渡するときは取締役会の承認を要する。
代用払込みに関する事項	-
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項	-

(注)1. 新株予約権1個当たりの目的となる株式数は、260株であります。

2. 当社が株式の分割、併合又は無償割当てを行う場合、新株予約権の目的となる株式の数は、次の算式により調整される。なお、かかる調整は、新株予約権のうち、当該時点において行使されていない新株予約権の目的となる株式についてのみ行われる。

$$\text{調整後株式数} = \text{調整前株式数} \times \text{分割、併合又は無償割当ての比率}$$

(調整後生じる1株未満の端株は切り捨てる。)

また、上記のほか、新株予約権発行日後に、当社が他社と吸収合併もしくは新設合併又はその他組織変更を行う場合等においては、各新株予約権の行使により発行される株式の数は適切に調整される。

3. 新株予約権発行日後に、当社が株式の分割、併合又は無償割当てを行う場合は、次の算式により行使価額を調整し、調整による1円未満の端数は切上げる。

$$\text{調整後行使価額} = \text{調整前行使価額} \times \frac{1}{\text{分割・併合・無償割当ての比率}}$$

4. 平成18年1月5日開催の取締役会決議により、平成18年3月1日付で1株を2株とする株式分割を行っております。これにより「新株予約権の目的となる株式の数」、「新株予約権の行使時の払込金額」及び「新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価格及び資本組入額」が調整されております。
5. 平成19年7月26日開催の取締役会決議により、平成19年9月3日付で普通株式1株につき0.3株の割合にて第1種優先株式の無償割当てを行っております。これにより「新株予約権の目的となる株式の数」、「新株予約権の行使時の払込金額」及び「新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価格及び資本組入額」が調整されております。

平成16年7月28日定時株主総会決議に基づくもの（株式会社伊藤園第3回新株予約権）

	第3四半期会計期間末現在 (平成22年1月31日)
新株予約権の数(個)	16(注)1
新株予約権のうち自己新株予約権の数(個)	-
新株予約権の目的となる株式の種類	当社普通株式
新株予約権の目的となる株式の数(株)	4,160(注)2
新株予約権の行使時の払込金額(円)	1(注)3
新株予約権の行使期間	平成17年9月1日～ 平成22年8月31日
新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価格及び資本組入額(円)	発行価格 1 資本組入額 1
新株予約権の行使の条件	(1)対象者は、当社又は当社子会社の取締役として在任中に限り、新株予約権を行使できる。ただし、当社又は当社子会社の取締役を任期満了その他正当な理由により退任した場合は、この限りではない。 (2)対象者は、新株予約権を買入れ、その他一切の処分をすることができない。 (3)新株予約権の相続は認めない。 (4)この他の権利行使の条件は、株主総会決議および取締役会決議に基づき、当社と新株予約権の割当を受けた者との間で締結する新株予約権割当契約の定めるところによる。
新株予約権の譲渡に関する事項	新株予約権を譲渡するときは取締役会の承認を要する。
代用払込みに関する事項	-
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項	-

(注)1. 新株予約権1個当たりの目的となる株式数は、260株であります。

2. 当社が株式の分割、併合又は無償割当てを行う場合、新株予約権の目的となる株式の数は、次の算式により調整される。なお、かかる調整は、新株予約権のうち、当該時点において行使されていない新株予約権の目的となる株式についてのみ行われる。

$$\text{調整後株式数} = \text{調整前株式数} \times \text{分割、併合又は無償割当ての比率}$$

(調整後生じる1株未満の端株は切り捨てる。)

また、上記のほか、新株予約権発行日後に、当社が他社と吸収合併もしくは新設合併又はその他組織変更を行う場合等においては、各新株予約権の行使により発行される株式の数は適切に調整される。

3. 新株予約権発行日後に、当社が株式の分割、併合又は無償割当てを行う場合は、次の算式により行使価額を調整し、調整による1円未満の端数は切上げる。

$$\text{調整後行使価額} = \text{調整前行使価額} \times \frac{1}{\text{分割・併合・無償割当ての比率}}$$

4. 平成18年1月5日開催の取締役会決議により、平成18年3月1日付で1株を2株とする株式分割を行っております。これにより「新株予約権の目的となる株式の数」、「新株予約権の行使時の払込金額」及び「新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価格及び資本組入額」が調整されております。
5. 平成19年7月26日開催の取締役会決議により、平成19年9月3日付で普通株式1株につき0.3株の割合にて第1種優先株式の無償割当てを行っております。これにより「新株予約権の目的となる株式の数」、「新株予約権の行使時の払込金額」及び「新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価格及び資本組入額」が調整されております。

平成17年7月28日定時株主総会決議に基づくもの（株式会社伊藤園第4回新株予約権）

	第3四半期会計期間末現在 (平成22年1月31日)
新株予約権の数(個)	68(注)1
新株予約権のうち自己新株予約権の数(個)	-
新株予約権の目的となる株式の種類	当社普通株式
新株予約権の目的となる株式の数(株)	17,680(注)2
新株予約権の行使時の払込金額(円)	1(注)3
新株予約権の行使期間	平成18年9月1日～ 平成23年8月31日
新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価格及び資本組入額(円)	発行価格 1 資本組入額 1
新株予約権の行使の条件	(1)対象者は、当社又は当社子会社の取締役として在任中に限り、新株予約権を行使できる。ただし、当社又は当社子会社の取締役を任期満了その他正当な理由により退任した場合には、この限りではない。 (2)対象者は、新株予約権を買入れ、その他一切の処分をすることができない。 (3)新株予約権の相続は認めない。 (4)この他の権利行使の条件は、株主総会決議および取締役会決議に基づき、当社と新株予約権の割当を受けた者との間で締結する新株予約権割当契約の定めるところによる。
新株予約権の譲渡に関する事項	新株予約権を譲渡するときは取締役会の承認を要する。
代用払込みに関する事項	-
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項	-

(注)1. 新株予約権1個当たりの目的となる株式数は、260株であります。

2. 当社が株式の分割、併合又は無償割当てを行う場合、新株予約権の目的となる株式の数は、次の算式により調整される。なお、かかる調整は、新株予約権のうち、当該時点において行使されていない新株予約権の目的となる株式についてのみ行われる。

$$\text{調整後株式数} = \text{調整前株式数} \times \text{分割、併合又は無償割当ての比率}$$

(調整後生じる1株未満の端株は切り捨てる。)

また、上記のほか、新株予約権発行日後に、当社が他社と吸収合併もしくは新設合併又はその他組織変更を行う場合等においては、各新株予約権の行使により発行される株式の数は適切に調整される。

3. 新株予約権発行日後に、当社が株式の分割、併合又は無償割当てを行う場合は、次の算式により行使価額を調整し、調整による1円未満の端数は切上げる。

$$\text{調整後行使価額} = \text{調整前行使価額} \times \frac{1}{\text{分割・併合・無償割当ての比率}}$$

4. 平成18年1月5日開催の取締役会決議により、平成18年3月1日付で1株を2株とする株式分割を行っております。これにより「新株予約権の目的となる株式の数」、「新株予約権の行使時の払込金額」及び「新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価格及び資本組入額」が調整されております。
5. 平成19年7月26日開催の取締役会決議により、平成19年9月3日付で普通株式1株につき0.3株の割合にて第1種優先株式の無償割当てを行っております。これにより「新株予約権の目的となる株式の数」、「新株予約権の行使時の払込金額」及び「新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価格及び資本組入額」が調整されております。

会社法に基づき発行した新株予約権は、次のとおりであります。

平成18年7月27日定時株主総会決議に基づくもの（株式会社伊藤園第5回新株予約権）

	第3四半期会計期間末現在 (平成22年1月31日)
新株予約権の数(個)	33(注)1
新株予約権のうち自己新株予約権の数(個)	-
新株予約権の目的となる株式の種類	当社普通株式
新株予約権の目的となる株式の数(株)	4,290(注)2
新株予約権の行使時の払込金額(円)	1(注)3
新株予約権の行使期間	平成19年9月1日～ 平成24年8月31日
新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価格及び資本組入額(円)	発行価格 1 資本組入額 1
新株予約権の行使の条件	(1)対象者は、当社の取締役として在任中に限り、新株予約権を行使できる。ただし、当社の取締役を任期満了その他正当な理由により退任した場合には、この限りではない。 (2)対象者は、新株予約権を質入れ、その他一切の処分をすることができない。 (3)新株予約権の相続は認めない。 (4)この他の権利行使の条件は、定時株主総会決議および取締役会決議に基づき、当社と新株予約権の割当を受けた者との間で締結する新株予約権割当契約の定めるところによる。
新株予約権の譲渡に関する事項	譲渡による新株予約権の取得については、当社の取締役会の承認を要する。
代用払込みに関する事項	-
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項	-

(注)1. 新株予約権1個当たりの目的となる株式数は、130株であります。

2. 当社が株式の分割、併合又は無償割当てを行う場合、新株予約権の目的となる株式の数は、次の算式により調整される。なお、かかる調整は、新株予約権のうち、当該時点において行使されていない新株予約権の目的となる株式についてのみ行われる。

$$\text{調整後株式数} = \text{調整前株式数} \times \text{分割、併合又は無償割当ての比率}$$

(調整後生じる1株未満の端株は切り捨てる。)

3. 新株予約権発行日後に、当社が株式の分割、併合又は無償割当てを行う場合は、次の算式により行使価額を調整し、調整による1円未満の端数は切上げる。

$$\text{調整後行使価額} = \text{調整前行使価額} \times \frac{1}{\text{分割・併合・無償割当ての比率}}$$

また、上記のほか、新株予約権発行日後に、当社が他社と吸収合併もしくは新設合併又はその他組織変更を行う場合等においては、各新株予約権の行使により発行される株式の数は適切に調整される。

4. 平成19年7月26日開催の取締役会決議により、平成19年9月3日付で普通株式1株につき0.3株の割合にて第1種優先株式の無償割当てを行っております。これにより「新株予約権の目的となる株式の数」、「新株予約権の行使時の払込金額」及び「新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価格及び資本組入額」が調整されております。

平成18年7月27日定時株主総会決議に基づくもの(株式会社伊藤園第6回新株予約権)

	第3四半期会計期間末現在 (平成22年1月31日)
新株予約権の数(個)	3(注)1
新株予約権のうち自己新株予約権の数(個)	-
新株予約権の目的となる株式の種類	当社普通株式
新株予約権の目的となる株式の数(株)	390(注)2
新株予約権の行使時の払込金額(円)	1(注)3
新株予約権の行使期間	平成19年9月1日～ 平成24年8月31日
新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価格及び資本組入額(円)	発行価格 1 資本組入額 1
新株予約権の行使の条件	(1)対象者は、当社の子会社の取締役として在任中に限り、新株予約権を行使できる。ただし、当社の子会社の取締役を任期満了その他正当な理由により退任した場合には、この限りではない。 (2)対象者は、新株予約権を買入れ、その他一切の処分をすることができない。 (3)新株予約権の相続は認めない。 (4)この他の権利行使の条件は、定時株主総会決議および取締役会決議に基づき、当社と新株予約権の割当を受けた者との間で締結する新株予約権割当契約の定めるところによる。
新株予約権の譲渡に関する事項	譲渡による新株予約権の取得については、当社の取締役会の承認を要する。
代用払込みに関する事項	-
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項	-

- (注)1. 新株予約権1個当たりの目的となる株式数は、130株であります。
2. 当社が株式の分割、併合又は無償割当てを行う場合、新株予約権の目的となる株式の数は、次の算式により調整される。なお、かかる調整は、新株予約権のうち、当該時点において行使されていない新株予約権の目的となる株式についてのみ行われる。

$$\text{調整後株式数} = \text{調整前株式数} \times \text{分割、併合又は無償割当ての比率}$$

(調整後生じる1株未満の端株は切り捨てる。)

3. 新株予約権発行日後に、当社が株式の分割、併合又は無償割当てを行う場合は、次の算式により行使価額を調整し、調整による1円未満の端数は切上げる。

$$\text{調整後行使価額} = \text{調整前行使価額} \times \frac{1}{\text{分割・併合・無償割当ての比率}}$$

また、上記のほか、新株予約権発行日後に、当社が他社と吸収合併もしくは新設合併又はその他組織変更を行う場合等においては、各新株予約権の行使により発行される株式の数は適切に調整される。

4. 平成19年7月26日開催の取締役会決議により、平成19年9月3日付で普通株式1株につき0.3株の割合にて第1種優先株式の無償割当てを行っております。これにより「新株予約権の目的となる株式の数」、「新株予約権の行使時の払込金額」及び「新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価格及び資本組入額」が調整されております。

(3) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成21年11月1日～ 平成22年1月31日	-	126,459,342	-	19,912	-	20,259

(5) 【大株主の状況】

大量保有報告書の写しの送付がなく、当第3四半期会計期間において、大株主の異動は把握しておりません。

(6) 【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（平成21年10月31日）に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

平成21年10月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	第1種優先株式 33,566,200		「1(1) 発行済株式」の 「内容」の記載を参照
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 2,013,300		
完全議決権株式(その他)	普通株式 89,183,500	891,835	
単元未満株式	普通株式 15,580 第1種優先株式 1,680,762		
発行済株式総数	126,459,342		
総株主の議決権		891,835	

(注)「完全議決権株式(その他)」の欄の普通株式には、証券保管振替機構名義の株式が500株(議決権5個)含まれております。

【自己株式等】

平成21年10月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 株式会社伊藤園	東京都渋谷区本町 3丁目47番10号	普通株式 2,013,300		普通株式 2,013,300	普通株式 2.21
計		2,013,300		2,013,300	2.21

2 【株価の推移】

【当該四半期累計期間における月別最高・最低株価】

(1) 普通株式

月別	平成21年5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	平成22年1月
最高(円)	1,300	1,415	1,535	1,713	1,729	1,687	1,550	1,486	1,423
最低(円)	1,171	1,270	1,393	1,470	1,600	1,513	1,325	1,353	1,328

(注) 最高・最低株価は、東京証券取引所市場第1部におけるものであります。

(2) 第1種優先株式

月別	平成21年5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	平成22年1月
最高(円)	810	838	934	980	997	985	925	974	930
最低(円)	786	806	836	917	958	930	839	858	898

(注) 最高・最低株価は、東京証券取引所市場第1部におけるものであります。

3 【役員の状態】

前事業年度の有価証券報告書提出日後、当四半期報告書の提出日までにおいて、役員の変動はありません。

第5 【経理の状況】

1 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号。以下「四半期連結財務諸表規則」という。)に基づいて作成しております。

なお、前第3四半期連結会計期間(平成20年11月1日から平成21年1月31日まで)及び前第3四半期連結累計期間(平成20年5月1日から平成21年1月31日まで)は、改正前の四半期連結財務諸表規則に基づき、当第3四半期連結会計期間(平成21年11月1日から平成22年1月31日まで)及び当第3四半期連結累計期間(平成21年5月1日から平成22年1月31日まで)は、改正後の四半期連結財務諸表規則に基づいて作成しております。

2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、前第3四半期連結会計期間(平成20年11月1日から平成21年1月31日まで)及び前第3四半期連結累計期間(平成20年5月1日から平成21年1月31日まで)に係る四半期連結財務諸表並びに当第3四半期連結会計期間(平成21年11月1日から平成22年1月31日まで)及び当第3四半期連結累計期間(平成21年5月1日から平成22年1月31日まで)に係る四半期連結財務諸表について、あずさ監査法人により四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】

(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	当第3四半期連結会計期間末 (平成22年1月31日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成21年4月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	16,306	14,334
受取手形及び売掛金	3 23,992	28,617
商品及び製品	15,854	15,515
原材料及び貯蔵品	8,493	8,884
その他	3 9,171	11,395
貸倒引当金	79	123
流動資産合計	73,738	78,624
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	14,937	15,592
土地	14,032	14,061
リース資産(純額)	18,464	12,539
その他(純額)	4,456	4,033
有形固定資産合計	1 51,890	1 46,226
無形固定資産		
のれん	14,109	14,065
リース資産	155	166
その他	10,055	9,071
無形固定資産合計	24,320	23,303
投資その他の資産		
投資その他の資産合計	2 13,954	2 12,649
固定資産合計	90,165	82,178
資産合計	163,904	160,803

(単位：百万円)

	当第3四半期連結会計期間末 (平成22年1月31日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成21年4月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	3 17,522	22,921
短期借入金	1,375	-
リース債務	4,557	2,796
未払費用	3 11,841	12,382
未払法人税等	1,725	1,354
賞与引当金	1,308	2,565
その他	3 1,673	1,732
流動負債合計	40,003	43,750
固定負債		
長期借入金	2,470	-
リース債務	15,451	10,832
退職給付引当金	4,127	3,679
その他	2,601	2,551
固定負債合計	24,650	17,064
負債合計	64,654	60,814
純資産の部		
株主資本		
資本金	19,912	19,912
資本剰余金	20,259	20,259
利益剰余金	71,947	72,141
自己株式	5,204	4,876
株主資本合計	106,914	107,435
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	335	270
繰延ヘッジ損益	4	23
土地再評価差額金	6,196	6,196
為替換算調整勘定	1,998	1,658
評価・換算差額等合計	7,863	7,607
新株予約権	12	14
少数株主持分	186	146
純資産合計	99,250	99,989
負債純資産合計	163,904	160,803

(2)【四半期連結損益計算書】
【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成20年5月1日 至平成21年1月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成21年5月1日 至平成22年1月31日)
売上高	255,360	253,261
売上原価	129,282	128,762
売上総利益	126,077	124,498
販売費及び一般管理費	117,767	114,395
営業利益	8,310	10,103
営業外収益		
受取利息	40	18
受取配当金	41	39
持分法による投資利益	39	38
その他	267	221
営業外収益合計	388	318
営業外費用		
支払利息	210	569
為替差損	337	271
その他	178	136
営業外費用合計	727	976
経常利益	7,972	9,445
特別利益		
固定資産売却益	-	2
固定資産受贈益	79	2
投資有価証券売却益	3	-
特別利益合計	82	4
特別損失		
固定資産廃棄損	91	52
減損損失	199	29
投資有価証券評価損	457	232
その他	6	35
特別損失合計	754	351
税金等調整前四半期純利益	7,300	9,098
法人税等	3,577	4,105
少数株主利益	78	40
四半期純利益	3,644	4,952

【第3四半期連結会計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結会計期間 (自平成20年11月1日 至平成21年1月31日)	当第3四半期連結会計期間 (自平成21年11月1日 至平成22年1月31日)
売上高	73,909	73,754
売上原価	37,624	37,242
売上総利益	36,285	36,512
販売費及び一般管理費	35,097	35,569
営業利益	1,187	942
営業外収益		
受取利息	10	6
受取配当金	12	12
持分法による投資利益	14	30
その他	55	65
営業外収益合計	92	114
営業外費用		
支払利息	112	212
為替差損	246	79
その他	59	32
営業外費用合計	418	325
経常利益	862	731
特別利益		
固定資産受贈益	44	-
投資有価証券評価損戻入益	41	-
特別利益合計	86	-
特別損失		
固定資産廃棄損	21	16
投資有価証券評価損	-	219
その他	2	11
特別損失合計	23	246
税金等調整前四半期純利益	924	484
法人税等	449	225
少数株主利益	21	8
四半期純利益	453	251

(3)【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成20年5月1日 至平成21年1月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成21年5月1日 至平成22年1月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	7,300	9,098
減価償却費	2,876	5,007
減損損失	199	29
のれん償却額	677	705
貸倒引当金の増減額(は減少)	15	100
賞与引当金の増減額(は減少)	1,271	1,256
退職給付引当金の増減額(は減少)	358	447
受取利息及び受取配当金	82	57
支払利息	210	569
為替差損益(は益)	73	104
持分法による投資損益(は益)	39	38
固定資産受贈益	79	2
固定資産廃棄損	91	52
投資有価証券評価損益(は益)	457	232
投資有価証券売却損益(は益)	0	-
売上債権の増減額(は増加)	4,206	4,543
たな卸資産の増減額(は増加)	2,809	43
その他の流動資産の増減額(は増加)	1,716	1,978
その他の固定資産の増減額(は増加)	226	227
仕入債務の増減額(は減少)	6,390	5,338
未払消費税等の増減額(は減少)	339	1,184
その他の流動負債の増減額(は減少)	1,681	599
その他	101	43
小計	5,841	16,789
利息及び配当金の受取額	87	63
利息の支払額	210	571
法人税等の支払額	6,662	3,726
営業活動によるキャッシュ・フロー	943	12,553
投資活動によるキャッシュ・フロー		
投資有価証券の取得による支出	12	1,441
有形及び無形固定資産の取得による支出	4,185	3,959
有形及び無形固定資産の売却による収入	4	33
長期前払費用の取得による支出	172	35
関係会社株式の取得による支出	540	902
その他	13	256
投資活動によるキャッシュ・フロー	4,892	6,049
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(は減少)	-	1,155
長期借入れによる収入	-	2,800
長期借入金の返済による支出	-	110
自己株式の取得による支出	11	345
自己株式の処分による収入	5	2
ファイナンス・リース債務の返済による支出	929	2,794
配当金の支払額	4,733	4,773
少数株主への配当金の支払額	-	52
その他の支出	6	5
財務活動によるキャッシュ・フロー	5,675	4,124

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成20年5月1日 至平成21年1月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成21年5月1日 至平成22年1月31日)
現金及び現金同等物に係る換算差額	120	62
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	11,632	2,318
現金及び現金同等物の期首残高	22,549	13,988
現金及び現金同等物の四半期末残高	10,916	16,306

【四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更】

	当第3四半期連結累計期間 (自平成21年5月1日至平成22年1月31日)
連結の範囲の変更	(1)連結の範囲の変更 第1四半期連結会計期間より、新たに設立した(株)グリーンフードシステムズを連結の範囲に含めております。 (2)変更後の連結子会社数 16社

【簡便な会計処理】

	当第3四半期連結累計期間 (自平成21年5月1日至平成22年1月31日)
1. 棚卸資産の評価方法	当第3四半期連結会計期間末における棚卸資産の簿価切下げに関して、収益性の低下が明らかなものについて正味売却価額を見積り、簿価切下げを行っております。
2. 繰延税金資産及び繰延税金負債の算定方法	繰延税金資産の回収可能性の判断に関して、前連結会計年度末以降に経営環境等に著しい変化が生じておらず、かつ、一時差異等の発生状況に著しい変化がないと認められるため、前連結会計年度末において使用した将来の業績予測やタックス・プランニングを利用する方法によっております。

【四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理】

	当第3四半期連結累計期間 (自平成21年5月1日至平成22年1月31日)
税金費用の計算	税金費用については、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前純損益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純損益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。 なお、「法人税、住民税及び事業税」及び「法人税等調整額」を「法人税等」として一括掲記しております。

【注記事項】

(四半期連結貸借対照表関係)

当第3四半期連結会計期間末 (平成22年1月31日)	前連結会計年度末 (平成21年4月30日)
1 有形固定資産の減価償却累計額 24,755百万円	1 有形固定資産の減価償却累計額 20,667百万円
2 資産の金額から直接控除している貸倒引当金の額 投資その他の資産 301百万円	2 資産の金額から直接控除している貸倒引当金の額 投資その他の資産 353百万円
3 四半期連結会計期間末日が金融機関の休業日であったが、決済が行われたものとして処理した債 権・債務額	3
債権 受取手形 61百万円 売掛金 10,858百万円 前払費用 8百万円 未収入金 4,669百万円	
債務 買掛金 17,093百万円 未払金 195百万円 未払費用 814百万円 未払消費税等 134百万円 預り金 594百万円	

(四半期連結損益計算書関係)

第3四半期連結累計期間

前第3四半期連結累計期間 (自平成20年5月1日 至平成21年1月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成21年5月1日 至平成22年1月31日)
販売費及び一般管理費の主要な費目及び金額は次のとおりであります。	販売費及び一般管理費の主要な費目及び金額は次のとおりであります。
販売手数料 36,387百万円	販売手数料 36,628百万円
広告宣伝費 9,873百万円	広告宣伝費 7,938百万円
貸倒引当金繰入額 46百万円	運送費 11,504百万円
運送費 11,431百万円	給与手当 24,092百万円
給与手当 25,190百万円	賞与引当金繰入額 1,224百万円
賞与引当金繰入額 1,305百万円	退職給付費用 1,010百万円
退職給付費用 980百万円	リース料 6,800百万円
リース料 8,814百万円	減価償却費 4,033百万円
減価償却費 2,165百万円	研究開発費 1,295百万円
研究開発費 1,491百万円	

第3四半期連結会計期間

前第3四半期連結会計期間 (自平成20年11月1日 至平成21年1月31日)	当第3四半期連結会計期間 (自平成21年11月1日 至平成22年1月31日)
販売費及び一般管理費の主要な費目及び金額は次のとおりであります。	販売費及び一般管理費の主要な費目及び金額は次のとおりであります。
販売手数料 10,514百万円	販売手数料 10,622百万円
広告宣伝費 1,973百万円	広告宣伝費 2,587百万円
運送費 3,217百万円	運送費 3,298百万円
給与手当 7,272百万円	給与手当 7,044百万円
賞与引当金繰入額 1,305百万円	賞与引当金繰入額 1,224百万円
退職給付費用 325百万円	退職給付費用 335百万円
リース料 2,778百万円	リース料 2,117百万円
減価償却費 899百万円	減価償却費 1,577百万円
研究開発費 523百万円	研究開発費 450百万円

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

前第3四半期連結累計期間 (自平成20年5月1日 至平成21年1月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成21年5月1日 至平成22年1月31日)
現金及び現金同等物の四半期末残高(10,916百万円)と四半期連結貸借対照表に掲記されている現金及び預金勘定に一致しております。	現金及び現金同等物の四半期末残高(16,306百万円)と四半期連結貸借対照表に掲記されている現金及び預金勘定に一致しております。

(株主資本等関係)

当第3四半期連結会計期間末(平成22年1月31日)及び当第3四半期連結累計期間(自平成21年5月1日至平成22年1月31日)

1 発行済株式に関する事項

株式の種類	当第3四半期 連結会計期間末(千株)
普通株式	91,212
第1種優先株式	35,246
合計	126,459

2 自己株式に関する事項

株式の種類	当第3四半期 連結会計期間末(千株)
普通株式	2,013
第1種優先株式	396
合計	2,410

3 新株予約権等に関する事項

ストックオプションとしての新株予約権

新株予約権の当第3四半期連結会計期間末残高 提出会社 12百万円

4 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当の原資	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
平成21年7月28日 定時株主総会	普通株式	利益剰余金	1,694	19	平成21年4月30日	平成21年7月29日
	第1種 優先株式	利益剰余金	845	24	平成21年4月30日	平成21年7月29日
平成21年12月2日 取締役会	普通株式	利益剰余金	1,694	19	平成21年10月31日	平成22年1月15日
	第1種 優先株式	利益剰余金	845	24	平成21年10月31日	平成22年1月15日

(2) 基準日が当連結会計年度の開始の日から当四半期連結会計期間末までに属する配当のうち、
配当の効力発生日が当四半期連結会計期間の末日後となるもの
該当事項はありません。

5 株主資本の著しい変動に関する事項

該当事項はありません。

(セグメント情報)

【事業の種類別セグメント情報】

前第3四半期連結会計期間(自 平成20年11月1日 至 平成21年1月31日)

	茶葉 (リーフ) 関連事業 (百万円)	飲料 (ドリンク) 関連事業 (百万円)	その他の 事業 (百万円)	計 (百万円)	消去又は全社 (百万円)	連結 (百万円)
売上高						
(1) 外部顧客に 対する売上高	8,141	60,800	4,967	73,909		73,909
(2) セグメント間の内部 売上高又は振替高						
計	8,141	60,800	4,967	73,909		73,909
営業利益	1,342	3,523	206	5,072	(3,884)	1,187

(注) 1 事業区分は製品・商品の種類・性質及び販売方法の類似性を考慮し、茶葉(リーフ)関連、飲料(ドリンク)関連、その他に区分しております。

2 各事業の主な製品及び商品

(1)茶葉(リーフ)関連事業.....緑茶・ウーロン茶等の茶葉(リーフ)製品

(2)飲料(ドリンク)関連事業.....日本茶・中国茶・野菜・果実・コーヒー・紅茶・機能性等の飲料(ドリンク)製品

(3)その他の事業.....上記以外の製品及び仕入商品、食材等

当第3四半期連結会計期間(自 平成21年11月1日 至 平成22年1月31日)

	茶葉 (リーフ) 関連事業 (百万円)	飲料 (ドリンク) 関連事業 (百万円)	その他の 事業 (百万円)	計 (百万円)	消去又は全社 (百万円)	連結 (百万円)
売上高						
(1) 外部顧客に 対する売上高	8,192	60,438	5,124	73,754		73,754
(2) セグメント間の内部 売上高又は振替高						
計	8,192	60,438	5,124	73,754		73,754
営業利益	1,619	4,308	302	6,230	(5,288)	942

(注) 1 事業区分は製品・商品の種類・性質及び販売方法の類似性を考慮し、茶葉(リーフ)関連、飲料(ドリンク)関連、その他に区分しております。

2 各事業の主な製品及び商品

(1)茶葉(リーフ)関連事業.....緑茶・ウーロン茶等の茶葉(リーフ)製品

(2)飲料(ドリンク)関連事業.....日本茶・中国茶・野菜・果実・コーヒー・紅茶・機能性等の飲料(ドリンク)製品

(3)その他の事業.....上記以外の製品及び仕入商品、食材等

前第3四半期連結累計期間(自 平成20年5月1日 至 平成21年1月31日)

	茶葉 (リーフ) 関連事業 (百万円)	飲料 (ドリンク) 関連事業 (百万円)	その他の 事業 (百万円)	計 (百万円)	消去又は全社 (百万円)	連結 (百万円)
売上高						
(1) 外部顧客に 対する売上高	21,974	218,467	14,918	255,360		255,360
(2) セグメント間の内部 売上高又は振替高						
計	21,974	218,467	14,918	255,360		255,360
営業利益	3,139	21,381	391	24,912	(16,602)	8,310

(注) 1 事業区分は製品・商品の種類・性質及び販売方法の類似性を考慮し、茶葉(リーフ)関連、飲料(ドリンク)関連、その他に区分しております。

2 各事業の主な製品及び商品

- (1)茶葉（リーフ）関連事業.....緑茶・ウーロン茶等の茶葉（リーフ）製品
 (2)飲料（ドリンク）関連事業.....日本茶・中国茶・野菜・果実・コーヒー・紅茶・機能性等の飲料（ドリンク）製品
 (3)その他の事業.....上記以外の製品及び仕入商品、食材等

3 会計方針の変更

（棚卸資産の評価に関する会計基準）

「四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更」に記載の通り、たな卸資産については、従来、主として総平均法による原価法によっておりましたが、第1四半期連結会計期間より「棚卸資産の評価に関する会計基準」（企業会計基準第9号 平成18年7月5日）が適用されたことに伴い、主として総平均法による原価法（貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法）により算出しております。これにより、当第3四半期連結累計期間の営業利益は、茶葉（リーフ）関連事業は35百万円、飲料（ドリンク）関連事業は2億10百万円、その他の事業は0百万円、それぞれ減少しております。

また、たな卸資産の処分に係る損失については、従来「営業外費用」に計上しておりましたが、第1四半期連結会計期間から売上原価として処理する方法に変更いたしました。この変更に伴い、従来の方法による場合と比較して当第3四半期連結累計期間の営業利益が、茶葉（リーフ）関連事業は1億49百万円、飲料（ドリンク）関連事業は4億14百万円、その他の事業は8百万円、それぞれ減少しております。

当第3四半期連結累計期間（自 平成21年5月1日 至 平成22年1月31日）

	茶葉 （リーフ） 関連事業 （百万円）	飲料 （ドリンク） 関連事業 （百万円）	その他の 事業 （百万円）	計 （百万円）	消去又は全社 （百万円）	連結 （百万円）
売上高						
(1) 外部顧客に対する売上高	22,157	216,046	15,057	253,261		253,261
(2) セグメント間の内部売上高又は振替高						
計	22,157	216,046	15,057	253,261		253,261
営業利益	3,706	21,564	893	26,163	(16,060)	10,103

（注）1 事業区分は製品・商品の種類・性質及び販売方法の類似性を考慮し、茶葉（リーフ）関連、飲料（ドリンク）関連、その他に区分しております。

2 各事業の主な製品及び商品

- (1)茶葉（リーフ）関連事業.....緑茶・ウーロン茶等の茶葉（リーフ）製品
 (2)飲料（ドリンク）関連事業.....日本茶・中国茶・野菜・果実・コーヒー・紅茶・機能性等の飲料（ドリンク）製品
 (3)その他の事業.....上記以外の製品及び仕入商品、食材等

【所在地別セグメント情報】

前第3四半期連結会計期間（自 平成20年11月1日 至 平成21年1月31日）及び当第3四半期連結会計期間（自 平成21年11月1日 至 平成22年1月31日）並びに前第3四半期連結累計期間（自 平成20年5月1日 至 平成21年1月31日）及び当第3四半期連結累計期間（自 平成21年5月1日 至 平成22年1月31日）全セグメントの売上高の合計に占める日本の割合が、90%を超えるため、所在地別セグメント情報の記載を省略しております。

【海外売上高】

前第3四半期連結会計期間（自 平成20年11月1日 至 平成21年1月31日）及び当第3四半期連結会計期間（自 平成21年11月1日 至 平成22年1月31日）並びに前第3四半期連結累計期間（自 平成20年5月1日 至 平成21年1月31日）及び当第3四半期連結累計期間（自 平成21年5月1日 至 平成22年1月31日）海外売上高の合計が連結売上高の10%未満のため、海外売上高の記載を省略しております。

（有価証券関係）

有価証券の四半期連結貸借対照表計上額その他の金額は、前連結会計年度の末日と比較して著しい変

動がありません。

(デリバティブ取引関係)

当第3四半期連結会計期間末においては、全てヘッジ会計が適用されているため、記載対象から除いております。

(ストック・オプション等関係)

該当事項はありません。

(企業結合等関係)

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

1 1株当たり純資産額

当第3四半期連結会計期間末 (平成22年1月31日)		前連結会計年度末 (平成21年4月30日)	
普通株式	798円49銭	普通株式	800円94銭
第1種優先株式	798円49銭	第1種優先株式	805円94銭

2 1株当たり四半期純利益金額及び潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額

第3四半期連結累計期間

前第3四半期連結累計期間 (自平成20年5月1日 至平成21年1月31日)		当第3四半期連結累計期間 (自平成21年5月1日 至平成22年1月31日)	
(普通株式)		(普通株式)	
1株当たり四半期純利益	27円87銭	1株当たり四半期純利益	38円40銭
潜在株式調整後1株当たり四半期純利益	27円79銭	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益	38円29銭
(第1種優先株式)		(第1種優先株式)	
1株当たり四半期純利益	32円87銭	1株当たり四半期純利益	43円41銭
潜在株式調整後1株当たり四半期純利益	32円79銭	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益	43円30銭

(注) 1株当たり四半期純利益及び潜在株式調整後1株当たり四半期純利益の算定上の基礎

項目	前第3四半期連結累計期間 (自平成20年5月1日 至平成21年1月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成21年5月1日 至平成22年1月31日)
1株当たり四半期純利益		
四半期純利益(百万円)	3,644	4,952
普通株主に係る四半期純利益(百万円)	2,486	3,425
第1種優先株式に係る四半期純利益(百万円)	1,158	1,527
普通株式の期中平均株式数(千株)	89,191	89,198
第1種優先株式の期中平均株式数(千株)	35,227	35,182
潜在株式調整後1株当たり四半期純利益		
四半期純利益調整額(百万円)	-	-
普通株式増加数(千株)	379	372
(うち新株予約権(千株))	(379)	(372)
普通株式に係る四半期純利益(百万円)	2,489	3,429
第1種優先株式に係る四半期純利益(百万円)	1,155	1,523
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益の算定に含まれなかった潜在株式について前連結会計年度末から重要な変動がある場合の概要	-	-

第3四半期連結会計期間

前第3四半期連結会計期間 (自平成20年11月1日 至平成21年1月31日)		当第3四半期連結会計期間 (自平成21年11月1日 至平成22年1月31日)	
(普通株式)		(普通株式)	
1株当たり四半期純利益	3円64銭	1株当たり四半期純利益	2円02銭
潜在株式調整後1株当たり四半期純利益	3円63銭	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益	2円01銭
(第1種優先株式)		(第1種優先株式)	
1株当たり四半期純利益	3円64銭	1株当たり四半期純利益	2円02銭
潜在株式調整後1株当たり四半期純利益	3円63銭	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益	2円01銭

(注) 1株当たり四半期純利益及び潜在株式調整後1株当たり四半期純利益の算定上の基礎

項目	前第3四半期連結会計期間 (自平成20年11月1日 至平成21年1月31日)	当第3四半期連結会計期間 (自平成21年11月1日 至平成22年1月31日)
1株当たり四半期純利益		
四半期純利益(百万円)	453	251
普通株主に係る四半期純利益(百万円)	325	180
第1種優先株式に係る四半期純利益(百万円)	128	70
普通株式の期中平均株式数(千株)	89,191	89,198
第1種優先株式の期中平均株式数(千株)	35,226	35,098
潜在株式調整後1株当たり四半期純利益		
四半期純利益調整額(百万円)	-	-
普通株式増加数(千株)	379	372
(うち新株予約権(千株))	(379)	(372)
普通株式に係る四半期純利益(百万円)	325	180
第1種優先株式に係る四半期純利益(百万円)	127	70
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益の算定に含まれなかった潜在株式について前連結会計年度末から重要な変動がある場合の概要	-	-

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

第45期(平成21年5月1日から平成22年4月30日まで)中間配当については、平成21年12月2日開催の取締役会において、平成21年10月31日の最終の株主名簿に記録された株主に対し、次のとおり中間配当を行うことを決議いたしました。

配当金の総額 普通株式 1,694百万円 第1種優先株式 845百万円

1株当たりの金額 普通株式 19円00銭 第1種優先株式 24円00銭

支払請求権の効力発生日及び支払開始日

普通株式及び第1種優先株式 平成22年1月15日

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成21年 3月12日

株式会社伊藤園
取締役会 御中

あずさ監査法人

指定社員
業務執行社員 公認会計士 飯田 輝夫 印

指定社員
業務執行社員 公認会計士 井上 智由 印

指定社員
業務執行社員 公認会計士 西田 俊之 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社伊藤園の平成20年5月1日から平成21年4月30日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間(平成20年11月1日から平成21年1月31日まで)及び第3四半期連結累計期間(平成20年5月1日から平成21年1月31日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書及び四半期連結キャッシュ・フロー計算書について四半期レビューを行った。この四半期連結財務諸表の作成責任は経営者であり、当監査法人の責任は独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューは、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続により行われており、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べ限定された手続により行われた。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社伊藤園及び連結子会社の平成21年1月31日現在の財政状態、同日をもって終了する第3四半期連結会計期間及び第3四半期連結累計期間の経営成績並びに第3四半期連結累計期間のキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

-
- (注) 1 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。
2 四半期連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成22年3月16日

株式会社伊藤園
取締役会 御中

あずさ監査法人

指定社員
業務執行社員 公認会計士 飯田 輝夫 印

指定社員
業務執行社員 公認会計士 井上 智由 印

指定社員
業務執行社員 公認会計士 西田 俊之 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社伊藤園の平成21年5月1日から平成22年4月30日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間(平成21年11月1日から平成22年1月31日まで)及び第3四半期連結累計期間(平成21年5月1日から平成22年1月31日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書及び四半期連結キャッシュ・フロー計算書について四半期レビューを行った。この四半期連結財務諸表の作成責任は経営者であり、当監査法人の責任は独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューは、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続により行われており、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べ限定された手続により行われた。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社伊藤園及び連結子会社の平成22年1月31日現在の財政状態、同日をもって終了する第3四半期連結会計期間及び第3四半期連結累計期間の経営成績並びに第3四半期連結累計期間のキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

-
- (注) 1 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。
2 四半期連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。